

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：環境安全課
 担当課長名：森山 誠二

事業名 地域高規格道路 岐阜南部横断ハイウェイ 一般県道 扶桑各務原線 新愛岐道路		事業区分 地方道	事業主体 愛知県・岐阜県
起終点 自：愛知県丹羽郡扶桑町小淵 至：岐阜県各務原市鷺沼大伊木町		延長	1.8 km
事業概要 一般県道扶桑各務原線は、愛知県丹羽郡扶桑町を起点とし各務原市に至る路線である。当該事業はこのうち木曾川渡河部の1,800m区間を整備するものであり、骨格幹線ネットワーク構想の推進、渋滞緩和による円滑な交通の確保、隣接県との観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保を目的としている。			
H17年度事業化	H17年度用地着手	H22年度工事着手	
全体事業費	125億円	事業進捗率	21% 供用済延長 0 km
計画交通量	9,200台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)
	1.8	73/106 億円 事業費：70/103 億円 維持管理費：2.8/2.8 億円	188/188 億円 走行時間短縮便益：171/171 億円 走行経費減少便益：15/15 億円 交通事故減少便益：1.9/1.9 億円
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.6~2.0(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.6~1.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.4~2.2(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=2.3~2.8(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.3~2.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.4~2.8(事業期間±20%)			
事業の効果等 ①渋滞緩和による円滑な交通の確保 ・新愛岐道路の整備により、木曾川渡河部における混雑を緩和し、交通の円滑化を図る。 ②隣接県との産業振興や観光交流の推進 ・当地域は航空宇宙産業の拠点として、有力企業が数多く立地するなど我が国有数の航空宇宙産業集積地となっており、平成29年度にリニューアル予定の「かかみがはら航空宇宙科学博物館」や「あいち航空ミュージアム」の立地が予定されている。 ・新愛岐道路の整備により、上記施設へのアクセス性が向上し、産業振興・観光交流の促進が期待される。 ③災害時に有効に機能するネットワークの確保 ・当該区間に並行し、上流側に犬山橋（春日井各務原線）、下流側に愛岐大橋（江南関線）が第2次緊急輸送道路に指定されており、新愛岐道路の整備により、災害時の救急活動を支援する。（第2次緊急輸送道路に追加予定）			
関係する地方公共団体等の意見 新愛岐道路は、県境に架かる愛岐大橋等の慢性的な渋滞の緩和、両県の連携強化及び防災対策を図ることが期待されており、各務原市をはじめとする中濃・各務原・尾張北部連絡幹線道路協議会より整備促進の要望がされている。			
事業評価監視委員会の意見 事業主体の対応方針（案）「継続」を了承する。			

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・国道21号坂祝バイパスの全線暫定2車線開通により、各務原・美濃加茂・関と、扶桑・小牧・名古屋の連携により、観光客増加や物流強化が期待される。新愛岐道路の整備により、観光交流や物流効果、商業施設利用者の増加が期待される。

事業の進捗状況、残事業の内容等

全体進捗率：21%、用地補償進捗率：97%（平成27年度末）

残事業の内容：橋梁工事（新愛岐大橋）、道路改良工事

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後の事業の見通し：平成39年度に完成供用を予定（未公表）

施設の構造や工法の変更：盛土材の有効利用

・他工事で発生したトンネルずりや切土による発生土を盛土部に有効利用

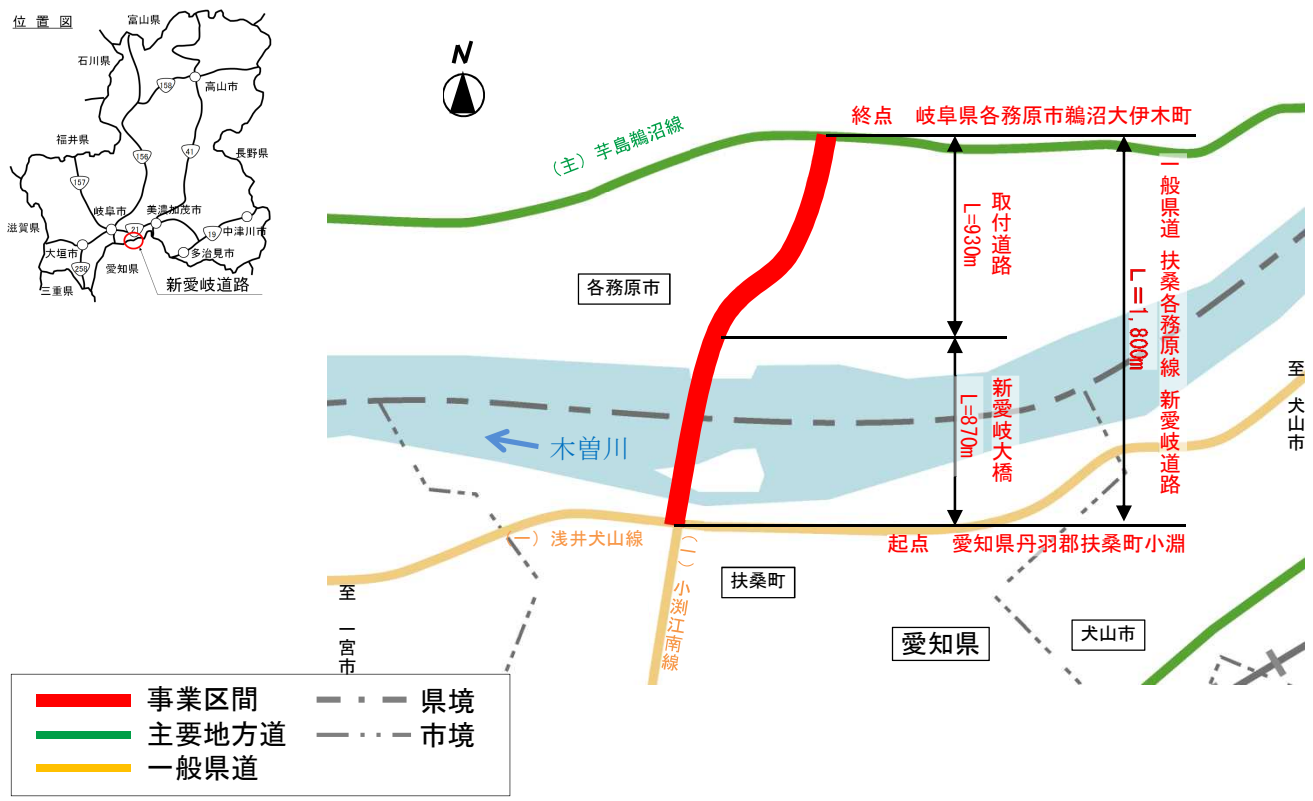
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

新愛岐道路の完成は、地域間の連携を推進し、安全で円滑な交通を確保することにより、地域交流・産業振興の発展に大きく寄与する。地元住民および関係市町から事業の継続、早期完成の強い要望がある。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。